

神奈川県立平塚支援学校 学校運営協議会 開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催しました。

会議名称	令和7年度 平塚支援学校 第3回 学校運営協議会
開催日時	令和8年2月24日(火) 9:30~11:30
開催場所	平塚支援学校 多目的室
出席者	学校運営協議会委員:(敬称略)渡部匡隆会長、定成幸代副会長、石井育代、熊澤惇、久光陽一、江村絵美 高田君恵校長 事務局:木村副校長、佐藤教頭、阿部事務長、三浦教育企画GL、沢井総務GL、佐藤連携GL
会議資料	開催要項、学校評価アンケートについて、第3回学校運営協議会、学校評価報告書
	<p>1 学校長あいさつ</p> <p>☑本日はお集りいただき、ありがとうございます。先日、保護者と教員に対して、「教育活動に関するアンケート」を実施した。今日はその結果もお示しする。忌憚のないご意見をお願いします。</p> <p>2 学校評価部会 <学校評価アンケートについて> (1) 保護者アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無記名、紙で配付、封筒に入れて回収という方法で実施。回収率は前年度より上がり、64%だった。 ・質問項目は全部で10問。5件法(A十分、Bほぼ十分、Cやや不十分、D不十分、Eわからない)による回答。AとBを合わせた数字の平均が90%だった。 ・特に評価の高かった項目が1番「お子様は学校へ行くことを楽しみにしていますか。」、7番「教職員は、児童生徒が将来に向けて必要なコミュニケーション力を高める等、自立と社会参加を目指した指導を行っていますか。」、10番「学校は、様々な災害を想定して、児童生徒にとって安全で安心できる教育環境を整えていますか。」だった。7番は、学校の課題として、熟議でも扱ったコミュニケーション力育成に関わること。引き続き取り組んでいく。10番は今年新しい取り組みを実施し、学校便り等で保護者にお知らせした結果が反映されていると考えられる。 ・評価の低かった項目は、2番「教職員はICTの活用、学習内容や教材の工夫をするなど、わかりやすい授業を行っていますか。」、8番「教職員は、保護者のニーズに合った進路に関する情報提供を行っていますか。」、9番「学校は、居住地交流や学校間交流、その他地域と連携した活動を行っていますか。」だった。2番と9番は、E(わからない)の割合が高く、保護者への説明や周知に課題がある。8番については、引き続き保護者のニーズをとらえ、丁寧に情報提供を行っていく努力が必要と考える。 ・保護者の「今後に期待すること」についての質問で一番多かったのは個別教育計画の充実と活用、2番が進路指導、3番が教員の専門性の向上だった。 <p>(2) 教員アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問項目は全部で12問。1~10番までは保護者と同じ内容。回収率は100%だった。 ・特に評価の高かった項目は1番「教職員は、児童生徒が楽しいと思えるような、授業作り、指導の工夫をしていますか。」、4番「教職員は、一人ひとりの人権を尊重した指導を行っていますか。」、6番「教職員は、児童生徒の実態に基づき、安全な給食指導を行っていますか。」だった。4番については、「さん付け呼称」の定着が進んでいる。生活年齢を意識した指導を行っていく必要がある。6番は、配慮食の試食、外部専門家による食べ方相談、STとの連携等が実施された結果と考えられる。 ・評価の低かった項目は10番「学校は、様々な災害を想定して、児童性にとって安全で安心できる教育環境を整えていますか。」、11番「学校は、特別支援教育の専門性を活かして、地域の学校の支援力向上のためのセンター的機能を発揮していますか。」、12番「今年度実施した業務改善の取り組みが、教員の授業作りの時間確保やウェルビーイングの向上につながりましたか。」である。10番について、今年度は新しい訓練や研修、点検等を実施した結果、災害に対する危機感が高まった結果と考えられる。11番は校内への成果の発信が少なかったからと考えられる。12番は「業務の偏り」を課題に感じている教員が一定数いる。 <p>(3) 保護者と教員アンケートの結果の比較</p> <ul style="list-style-type: none"> ☑保護者が低く、教員が高い…地域と連携した活動 ☑教員が低く、保護者が高い…災害を想定した教育環境作り ☑保護者、教員どちらも低い…ICT機器を活用した授業、進路情報の提供 <p>(4) 質疑応答</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ アンケートの回収率は64%という結果。A小学校のアンケートの回収率は? ○ 79%だった。

<年間評価について> 4つの段階(◎○△×)で評価を行った。

(1) 教育課程 学習指導

①〔目標〕児童・生徒の実態に合わせたICT機器の活用を推進し、授業の充実を図る。○

・☑学校研究との連動により取り組みが推進された。

②〔目標〕児童・生徒の実態や取り巻く環境に応じた持続可能な教育課程を再考する。○

・☑環境変化に応じた新しい作業内容の計画が進んだ。

(2) 児童・生徒指導・支援

①〔目標〕教員の人権尊重の意識を高め、児童・生徒の指導、支援に活かしていく。○

・☑研修会、自己点検シート、学部アンケート等の実施により意識が高まった。

②〔目標〕校内研究と連動しアセスメント結果を個のニーズに応じた指導、支援に活かしていく。○

・☑回の充実した研修会を実施し、活用が進んだ。

(目標)児童生徒の実態に適した給食指導を行う。◎

・☑言語聴覚士との連携、外部専門家の相談、給食試食会の実施等に取り組み安全な給食指導が実施できた。

(3) 進路指導・支援

①〔目標〕社会参加に向けた主体的、自発的なコミュニケーション力の育成を図る。○

・☑外部専門家の活用等を通して、取り組みが進んだ。

②〔目標〕児童・生徒と保護者が主体的に進路を選択できるよう支援する。○

・☑計画通り、進路説明会、進路先見学会、福祉制度等の説明会を実施した。

(4) 地域等との協働

①〔目標〕地域資源を積極的に教育活動に生かすとともに、地域と学校が相互に支えあう関係を目指す。○

・☑花菜ガーデンと相互理解の取り組みを実施し、連携が深まった。

②〔目標〕学校コンサルテーションの視点を重視した教育相談や情報提供等による支援を実践する。△

・☑市教委との打ち合わせを実施したことで、ケース会議への校長の参加が増えた。

(5) 学校管理・学校運営

① (目標) 地域と連携した防災を目指し近隣自治会との連携の基礎を構築する。○

・☑防災部会の実施により地域との連携が深まった。また新しい訓練、研修、点検等を実施できた。次年度は防災対策委員会、係別ミーティングを実施する。

② (目標) 授業準備のための時間確保の視点から、業務改善を進める。△

・☑下校時刻の変更や行事の削減等で効果が見られたが、「業務の偏り」を感じる職員が一定数いることがわかった。

<質疑応答>

○ICT機器を活用した授業について、取り組みが進んでいる中で、それでも教員のアンケート結果が不十分14%と高めなのはなぜか。

●今回のアンケートで、理由を記入する欄を作らなかったため詳細を把握できなかった。日々変わっていくICTの状況についていくことの大変さ、もともと苦手意識を持っている教員がいることなどが表れているかと考えられる。

○学年が上がるにつれて、アンケートの回収率が下がるのはなぜか？

●この結果はどの学校も同様になることが多い。小学部段階の保護者のほうが学校への関心が高い。

○島3となると、進路で忙しくバタバタしているということもあるかもしれない。

3 切れ目ない支援部会

<報告>

(1) 学校コンサルテーションにつながる巡回相談について

・☑月に平塚市教育委員会と協議の場を持ち、巡回相談の形を今までの「講義、質疑応答形式」ではなく、地域の学校が問題解決能力を高められる形に変えていくことを提案、了承を得た。

・☑その枠組みを実現するために、巡回相談時、市教委指導主事と授業観察やケース会議の前に打ち合わせの時間を設けることとした。これにより、ケース会の進め方、主訴の明確化、巡回相談の役割の確認などについて情報共有ができた。

・☑依頼者である学校側が意見を述べる機会を設けることにつながった。また8ケース全てにおいて、ケース会議に学校長が出席していただき、地域の学校の変化が見られた。

・☑平塚市内の特別支援学校と情報交換し、市教委の事前相談票について、「聞き取り内容の項目化」、「児童生徒の困りごと項目の整理」を提案し、より使いやすい形に変えていきたい。

(2) 地域との連携

・☑インクルーティブ湘南との連携…イベント「みんなのたのしめてるか。」への生徒ボランティア参加、学習発表会や授業への協力、高等部実習材の提供、ベルマーレ応援給食の実施

・☑花菜ガーデンとの連携…相互理解を進めるための職員交流(お互いの施設概要説明)、花菜ガーデン避難訓練への生徒、教員の参加、障害者雇用についてのプレゼンテーション実施

<質疑応答>

○巡回相談8ケースの相手校の内訳は？

●中学校2ケース、小学校6ケースである。

4 防災部会 〈報告〉

- ・寺田縄自治会防災訓練への参加(7月)、寺田縄、飯島自治会との話し合い(9月)第1回防災部会(10月)を経て、1月20日に第2回防災部会を実施した。防災部会メンバーに加え、平塚市障がい福祉課、災害対策課、湘南支援学校担当者(オブザーバー)が参加。
- ・「学校が困ること」についてのアンケート結果を共有した。学校側からは職員が集まっていない通勤通学の時間帯への不安があるという意見があった。
- ・自治会からは、高齢であるなど、様々な事情により、指定避難所である金田小学校に行くことが難しい場合、近くの平塚支援学校に避難したいというニーズがあるという話があった。
- ・平塚市担当者からは、市内の建物の95%が耐震基準を満たしているため、家に留まるほうが安全であると考えられるが、命を守る場は地域に多くあるほうがよいため、一時(いつとき)避難所として、地域が決めた場所(平塚支援学校等)に地域住民が避難することについてはよし悪しを言うことはないと言われた。
- ・今後の取り組みとして、地域の避難者数の想定、学校に職員がいない時間帯に災害が起こった時の対応検討(覚書の作成)、一時避難所の設営方法の検討、福祉避難所移行の段取り想定、子どもたちを地域に知ってもらう取り組みの検討を実施する。

5 各部会の報告内容についての協議

- I-②取り巻く環境に応じて持続可能な教育課程について、次年度以降、木工、陶芸の作業を行うこととなったとのことだが、内容が昭和的だと感じる。かつてコーヒーの焙煎をやっていた時期があり、そのような活動も検討するとよいと考える。
- 卒業後に向けて、企業から学校には生徒のどのような力が求められているか。
- 作業ができることよりも、コミュニケーションの力(報告、連絡、相談)や一人で移動できる力を求められている。
- 自立と社会参加に向け、高等部は一人で通学する。しかし必要があればスクールバスも利用する。
- 生徒たちを社会に送り出すための教育はどうなっているか?
- 高等部では毎週作業の授業を行っている。また年2回、2週間の校内実習を行う。その中で力をつけられるように取り組んでいる。
- 進路は大切な学習である。どういう進路先が多いのか。
- 高Bの場合、30名中10名くらいが企業就労、他は福祉的就労(福祉事業所の利用)。高Aは福祉的就労が多い。また1週間の中で、3か所の事業所を利用するケースなどもある。

6 熟議

(1) 前回の熟議(テーマ:社会参加に向けた主体的、自発的なコミュニケーション力を育成するには?)に関する報告

① 絵カードコミュニケーションの取り組み

- ・心理職からの助言をもとに、当該クラスの絵カードコミュニケーションの指導を今後も継続していく。
- ・成果を学校全体で共有するために、全教員対象の報告会を実施する。

② 発信手段としてのICTの活用

- ・2月18日に研究発表会を実施。その中で、ICTを子どもの発信手段として活用した事例が複数あり、教員間で共有できた。これを今後の指導に活かしていく。

③ 関係機関への情報提供

- ・施設職員に学校で使っている手段を説明し、参考に、写真カードを渡したケースがある。
- ・昨年度は、放デイ連絡会において、子どものコミュニケーション手段について説明した。

④ SNSのトライアル的取り組み

- ・高等部を中心にSNS(主にLINEやX)に関するトラブルが多い状況が続いている。
- ・現段階では、スマホ安全教室や学級、学年での予防的な指導を継続していくとともに、個別の指導を丁寧に行っていく。

⑤ 日常的、リアル、対等なコミュニケーションの機会

- ・これまで行ってきた地域活動を見つめ直し、日常的で、リアルで、対等なコミュニケーションの場面を意図的に設定していく。
- ・児童生徒がリアルを体験できるよう、教員が先回りし過ぎない、手や口を出し過ぎない、地域の方に任せる、という意識を高める。

(2) 新たなテーマの説明と熟議

〈テーマ〉教員同士のコミュニケーションを活性化し、同僚性を向上させるには?

〈設定の背景〉

- ・近年、様々な働き方の教員が複数いる。また全体的に、教員不足が問題になっており、本来フルタイムの職員を充てるべきところに、短時間非常勤職員を充てている状況がある。そのため、余裕がなく、教員同士がじっくり話をする時間がとりにくい。

・教員アンケートに、「業務の偏りが著しい。」「負担の集中を減らすべき。」「仕事量が比較的少ない人に仕事を回してほしい。」「授業作りや教材研究を時間外にしている。」「特別支援教育の専門性が以前と比べて薄まっている。」等の記述があった。

・ヒヤリハットアクシデント報告には、教員同士のコミュニケーション不足が一因と考えられるものがある。

〈これまでの取り組み〉

- ・負担が集中しないよう校内人事配置を配慮
- ・宿泊行事の削減、下校時間の変更（繰り上げ）等の業務改善
- ・同僚性の向上に関する研修会の実施
- ・「学びあいモール」を実施し、教職員同士が得意分野を教えあう機会を作る。

〈設定の理由〉

教員がお互いをもっとよく知り合うことで、相談、協力しやすくなり、コミュニケーションが円滑になる。それが教育活動の充実につながっていくと考えられるため。

〈熟議〉

○△小学校でも療養休暇の代替がいなくて、教務、教頭がクラス担任として入るなど人手不足の状態。また近隣の中学校分校では、特定の教科の教員がいないため別の教員が担当しているという現状があると聞いている。

○△小学校の同僚性向上の工夫としては、学年担任制の導入がある。2学級に3人の担任がおり、週でローテーションする。令和8年度は、文科省の指定を受け、「柔軟な教育課程」について先取りで実施することになっている。これにより、32時間を研究に充て、30時間を子どもに返すという予定。

○企業においても同様の課題がある。ヒヤリハットの原因はコミュニケーション不足が9割。上司が状況把握のために面接をし、社員がそこで不安を言えることで、満足する面もある。月1回設定するなどして課題を吸い上げられるとよい。

○企業の場合面接するのはどのポジションの人か？

○近い関係にある直属の上司になる。

○かつて企業に勤めていたときもコミュニケーションの難しさを感じていた。口を酸っぱくして報連相+確認するように言っていた。「嫌いな人」には報連相はしないものなので、人間関係を作っていくことが基本となる。かつては社員旅行や飲み会があり、それが機能していた。

○保護者として、かつて小1のときの担任同士はコミュニケーションがよく取れていると感じたが、今は縦割り授業も多く、教員同士が見て見ぬふりをしている様子も見られる。かつては、年配の教員が若手を引っ張っていた感じだった。そのころは、面談や送迎のとき等、親とも壁を作らずにどんどん発言してくれて、人間としてのつながりが構築できていた。コロナを機に学校へ行く機会が減ってしまった。

○自分の会社では全社員が「自分のなりた姿」を上司と話、成績表を上司と作る。3か月に1回見直しを行い、足りないところがあればいつまでにどうするかを述べてもらう。問題のある社員は1か月に1回の面談を行う。学校としての航路(方針)を決めておくことが大事。短時間勤務の教員でもできることを明確化するとよいのでは。

○防災部会を実施することで学校のことを知ってもらうことができたように、「職員同士が知り合うことの大切さ」がある。

○業務改善アンケート結果に好事例も見られる。どうしてうまく取り組めたのかを情報収集するとよい。

●好事例については、深堀していきたい。

●職員室が4つあり、職員それぞれが「知り合う」ことが十分にできていないかもしれない。親睦を深めるための機会を意図的に作っていく必要を感じた。

7 校長のこぼ

協議ありがとうございました。皆様からのご意見、ご助言を今後の学校運営に活かしていきたい。

8 事務連絡

【閉会後の有識者による評価】

・アンケート回収率が上がったことは評価できる。さらに上がるよう引き続き、努力をしてほしい。

・毎間評価 4-②学校コンサルテーションの視点を重視した教育相談については、△→○の上方修正でよいと考える。市教委との協議の場を設定することができ、ケース会議への校長参加につながった。市教委との協議は定期開催できるようにしていく必要がある。

・毎間評価5-①大災害を想定した初動対応については、○→◎の上方修正でよいと考える。昨年までの取り組みを踏まえ、新しい訓練等の取り組みができ、そのうえで課題が見つかったことは成果である。自治会との協議が実施できたことは素晴らしい。インクルーシブな取り組みができているので、防災部会は「インクルーシブ防災部会」とするとよい。R8から始まる防災対策委員会と防災部会の接続が重要。どちらの会にも関わる構成員を管理職以外の職員とし、取り組みを進めていくことが必要。

・インクルーシブ湘南や花菜ガーデンとの連携の取り組みは、様々なアイデアがあるが、どの学校の中の校務グループが役割を担うのかを明確にすることで組織的なものにしていく。例えば地域連携班に役割を位置付けるなどの工夫が必要。

- ・それぞれの教員の得意不得意を見極め、どこに配置するとより活躍できるかを考えることが重要である。
- ・若手は自分をあまり出さない傾向があり、管理職との1対1の場面では緊張感が高くなる。ベテランが若者をサポートするメンターのような制度も有効。
- ・教員間の縦のつながりだけでなく、横のつながりが重要。もっと総括教諭同士のコミュニケーションを高めていけるとよい。
- ・圏域連携は、より実効性を高めるために、地域団体をうまく利用する。地域の人選(例 副市長、社協等)も重要である。